



題字 井口 文章
再刊 第533号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2026

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：今年も大盛況の後夜祭
出演団体を一挙で紹介！
二面：奥深い翻訳の世界 代田亜香子さん取材
留学生インタビュー・図書委員会の夏休み

錦城の夏は終わらない！！

アオハル詰まった後夜祭

9月13日(日)16時30分、錦城祭の熱狂もそのままだに、後夜祭が開催された。個性あふれるパフォーマンスや先生方のランウェイに会場のボルテージは最高潮に達した。(編集部共同取材)

開幕から熱い前半戦

今年の後夜祭のスローガンは「この夜、青春は最高潮」。魅力あふれる12団体が会場を盛り上げた。OPでは出演団体の登場映像が流れ、会場の期待が高まった。



この日限りのスペシャルユニット「引退試合」

「弓道」が登場。人気アイドル曲「倍倍」を馬の被り物でカバーした。コーラスとダンスもあり、大きな盛り上がりを見せた。次のバンド「引退試合」は、少人数のバンドで、高嶺の花子さんを披露。サビでは観客も一緒に歌い、会場の一体感はさらに増した。2人組ユニット「SLOVE」はアイドルグループ「LOVE」の「くべちゅ、して」など2曲をダンスカバー。華やかな衣装を身にまとい、会場を魅了した。



馬の被り物でパフォーマンス

後夜祭を沸かせた名司会！ 熱狂と笑いの夜を振り返る



今年の後夜祭で司会を務めたのは佐藤立清さん(3B)さん、下田司さん(3C)、村田憲信さん(3E)、鶴田翔さん(2M)。まず4人が司会に応募した動機を聞いた。佐藤さんは、担任に推薦されて司会に応募したそう。下田さんは「ずっと司会をやりたいと思っていたところ、周りの人から推されて応じたという。村田さんは出演者の説明会に行ったが、下田さんからその場で誘われたため司会になった。鶴田さんは二者面談を待っているときに捕まったとことで、最初は司会になるつもりはなかったそう。下田さんは司会をしている時に、出演者がやりやすいように場をつなげることを特に意識していたそう。佐藤さんは棒読みにならないようにしつつ、普段通りのテンションでいれるように心がけていたという。村田さんは観客が盛り上がるようにとにかく自信を持って話すようにしていたという。鶴田さんは見ている人たちを楽しませるために観客も巻き込むようにしていたそう。佐藤さんは「3年生の最後にいいことができました」と振り返る。「2年間見る側として参加していましたが、場を作る側として貴重な経験ができました」と話してくれたのは下田さん。村田さんは「観客の前に立った時に緊張よりも楽しみたいという思いが勝り、全力で楽しめました」と笑顔を見せる。鶴田さんは「後夜祭の後に、『最高だったよ！』と言われて嬉しかったです。来年も絶対やりまします！」と語ってくれた。(蓮)



名場面
集結！

後夜祭グラフィティ

正巻！

後夜祭の立役者が想いを語る

委員長「楽しんでもらえてよかった」

ハプニングにもつきに対応

後夜祭実行委員長の篠原梨子さん(2M)に後夜祭を振り返ってもらった。篠原さんは元々、錦城の後夜祭で花火が打ち上がるのを知って錦城に入りたかったという。昨年、後夜祭実行委員として活動して、楽しかったため、



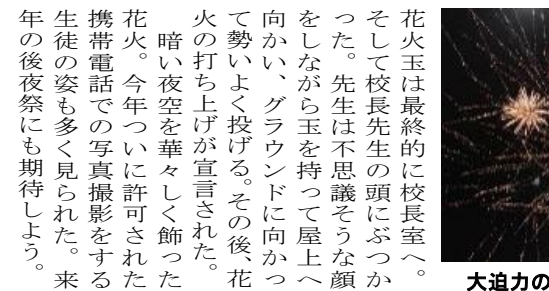
今年の課題を語る委員長

委員長の想いを語る。今年の後夜祭では、昨年からサイリウムの数を300個増やしたが、結果的には足りなくなってしまうという。途中でステージの幕が閉まりましたが、代わりに照明で場面の切り替えなどをし



あの魔人になりきり！！？

今年の後夜祭で司会を務めたのは佐藤立清さん(3B)さん、下田司さん(3C)、村田憲信さん(3E)、鶴田翔さん(2M)。まず4人が司会に応募した動機を聞いた。佐藤さんは、担任に推薦されて司会に応募したそう。下田さんは「ずっと司会をやりたいと思っていたところ、周りの人から推されて応じたという。村田さんは出演者の説明会に行ったが、下田さんからその場で誘われたため司会になった。鶴田さんは二者面談を待っているときに捕まったとことで、最初は司会になるつもりはなかったそう。下田さんは司会をしている時に、出演者がやりやすいように場をつなげることを特に意識していたそう。佐藤さんは棒読みにならないようにしつつ、普段通りのテンションでいれるように心がけていたという。村田さんは観客が盛り上がるようにとにかく自信を持って話すようにしていたという。鶴田さんは見ている人たちを楽しませるために観客も巻き込むようにしていたそう。佐藤さんは「3年生の最後にいいことができました」と振り返る。「2年間見る側として参加していましたが、場を作る側として貴重な経験ができました」と話してくれたのは下田さん。村田さんは「観客の前に立った時に緊張よりも楽しみたいという思いが勝り、全力で楽しめました」と笑顔を見せる。鶴田さんは「後夜祭の後に、『最高だったよ！』と言われて嬉しかったです。来年も絶対やりまします！」と語ってくれた。(蓮)



大迫力のカラフルな花火

花火玉は最終的に校長室へ。そして校長先生の頭にぶつかった。先生は不思議そうな顔をしながら玉を持って屋上へ向かい、グラウンドに向かって勢いよく投げる。その後、花火の打ち上げが宣言された。暗い夜空を華々しく飾った花火。今年ついに許可された生徒の姿も多く見られた。来年の後夜祭にも期待しよう。

むらさき草

「名もなき家事」という言葉を知っているだろうか。それは、名前もついていない日常のこまごまとした家事の総称である。大和ハウス工業の多田綾子さんが提唱したもので、共働きの家族が暮らしやすい家を提案するために、家事の定義を検討したことがきっかけだ。そう、(東京都民生活部男女平等参画課)「E」家事育児インタビュー記事参照。ちなみに、「名もなき家事」ランキング1位は裏返しに脱いだ衣類・丸まったままの靴下を直す、2位は玄関で脱ぎっぱなしの靴の片付け、3位はトイレトイレットペーパーの交換だ。という大和ハウス工業「名もなき家事」の紹介。参考：我が家の場合、脱ぎ捨てた靴下がいつの間にか片付いていることがよくある。母が片づけてくれているのがストレスだろう。というか、もうそろそろ母もしびれを切らして私を家から追い出す気ではないか。今すぐ解決せねば。夏休み、家にいる時間が増えて自分で料理や洗濯をするようになった。そして我が家には「名もなき家事」が様々なところに存在していることに気づいた。料理も献立を考える、食材を確認する、ご飯を作る、洗剤を洗うなどなどの「名もなき家事」がたくさん出てきて、大変だった。今までは、目の前に並べられた食卓のことしか見ていなかった。「名もなき家事」は、存在が見えにくい。だから家事を分担する人たちの苦勞を見落とさず、実際に体験することで、「名もなき家事」の存在に気づくことができた。だから自分で洗濯しよう。毎日靴下は初めから洗濯機に入れて、余計な家事を増やさないよう努めよう。それが母のストレスを減らし、私が家を追い出されずに済む唯一の方法だ。(鈴)

